

第1章 背景・位置づけ・計画期間

【背景】

少子化の進行により、令和6年の本市の出生数は779人（過去最低）
 児童生徒数も昭和60年の約24,000人をピークに減少し、約12,000人
 （令和7年5月1日現在）と半減

→ クラス替えが行えない学年・学校が生じ、多様な考えに触れる機会の減少、教育効果や教育活動にも様々な影響



【位置づけ】

「苫小牧市立小中学校規模適正化基本方針」に基づき、適正規模、適正配置の中・長期的な全体像を示す

【計画期間】

令和9年度（2027年度）から令和18年度（2036年度）までの10年間
 （社会情勢や児童生徒数の推移などの変化も想定されることから、計画期間の中間年度に見直し）

第2章 アンケート

■未就学児の保護者

望ましい学級数について、93.7%がクラス替えのできる2～4学級と回答

■在校生の保護者

現状2学級以上の場合、「満足」が過半数を超えるが、1学級の場合は「不満」が過半数を超える

統廃合については、小規模校の解消は望むが、在校生に影響がないようにしてほしいが61.6%であった

第3章 再編の基本方針

- 1 小規模校の再編、クラス替えが可能かつ、より充実した集団活動が可能な環境の整備
- 2 全市的な配置バランスを見極めながら隣接校と統合（小中連携や地域コミュニティの要素を考慮）
- 3 スクールバスの活用などを検討し、通学の安全を確保

第4章 全体像

現在37校を10年間で12校減の25校に再編

（小学校 22→14 中学校 14→9 義務教育学校 1→2）

- ・閉校する小学校（清水、美園、糸井、若草、苫西、日新、豊川）
- ・閉校する中学校（凌雲、開成、啓明、明野）
- ・義務教育学校化（勇払小・中）

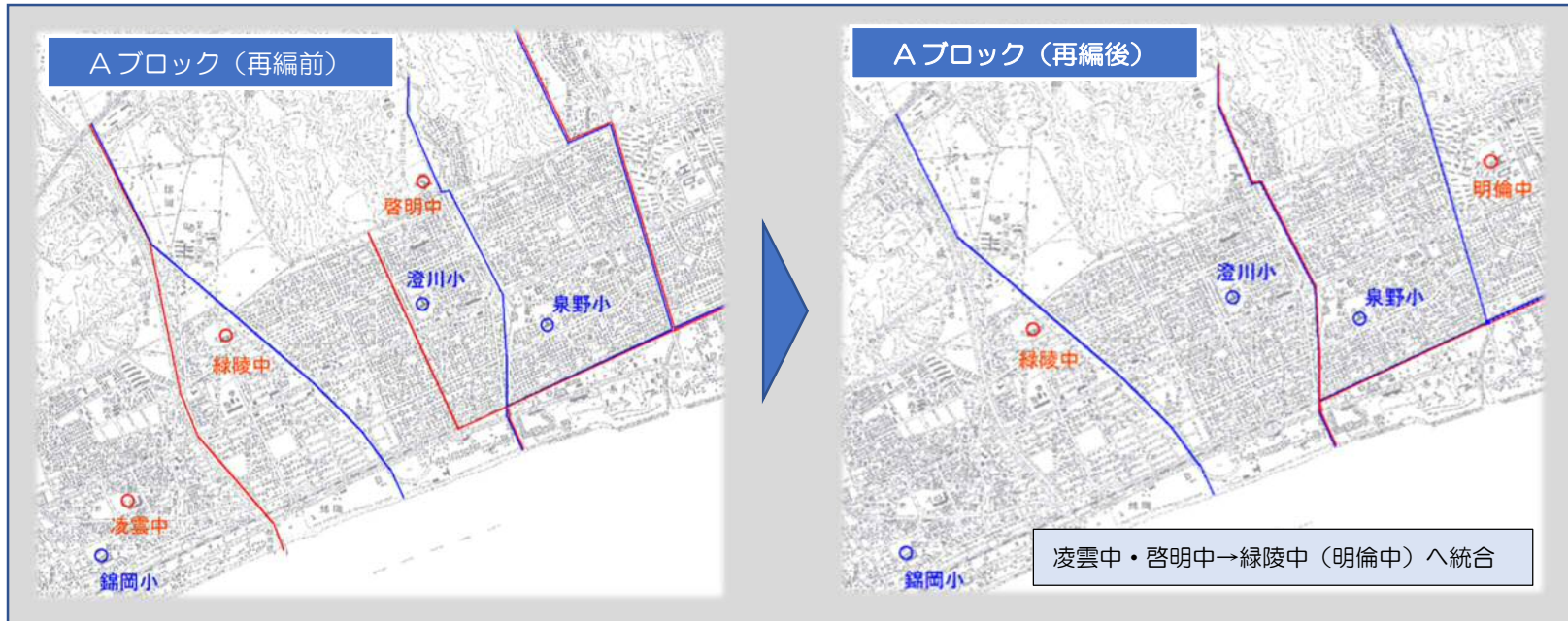
【統合スケジュール】

統廃校	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)
清水小→緑小						■				
凌雲中→緑陵中	準備期間					■				
美園小→緑小（明野小）	→各地域協議					■				
開成中→和光中	（通学対策、跡地活用等）						■			
糸井小・苫西小→大成小	→各地域プラン策定						■			
若草小・苫西小→苫東小	（地域ごとに具体的な方策を決定）						■			
日新小・豊川小→北星小（北光小）								■		
啓明中→明倫中（緑陵中）									■	
明野中→和光中									■	

令和8年度に本素案について、保護者・地域と協議を進める

■各ブロック学校配置図

青線：小学校校区 赤線：中学校校区

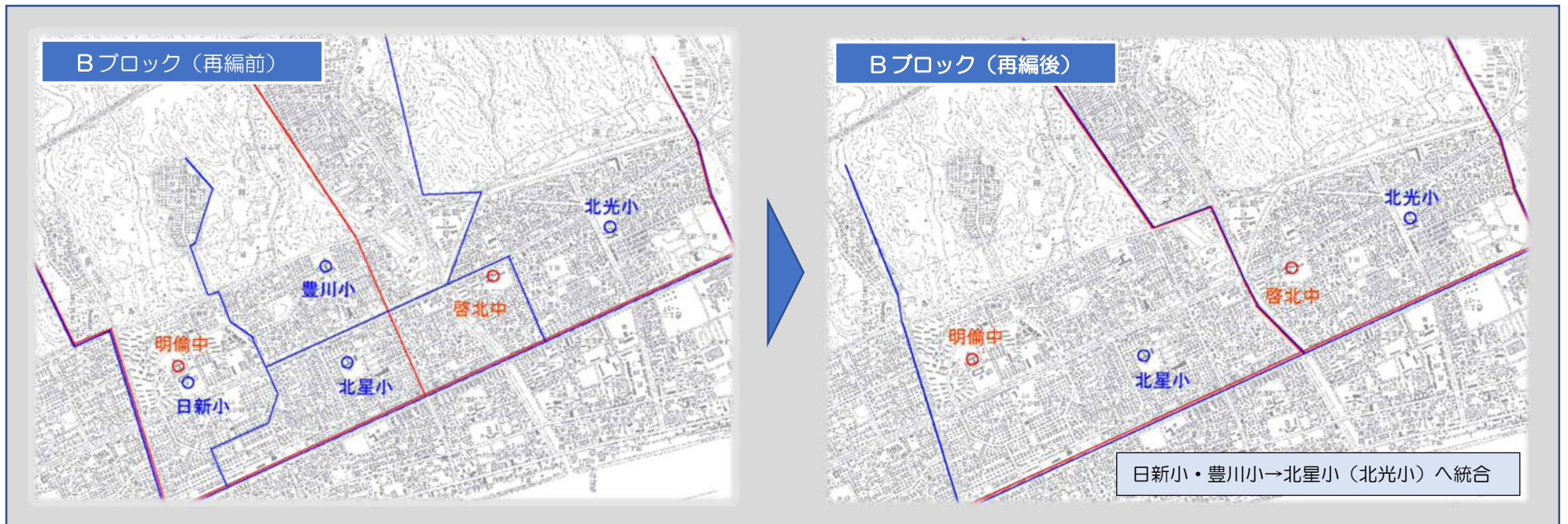


Dブロック
（沼ノ端、ウトナイ地区）

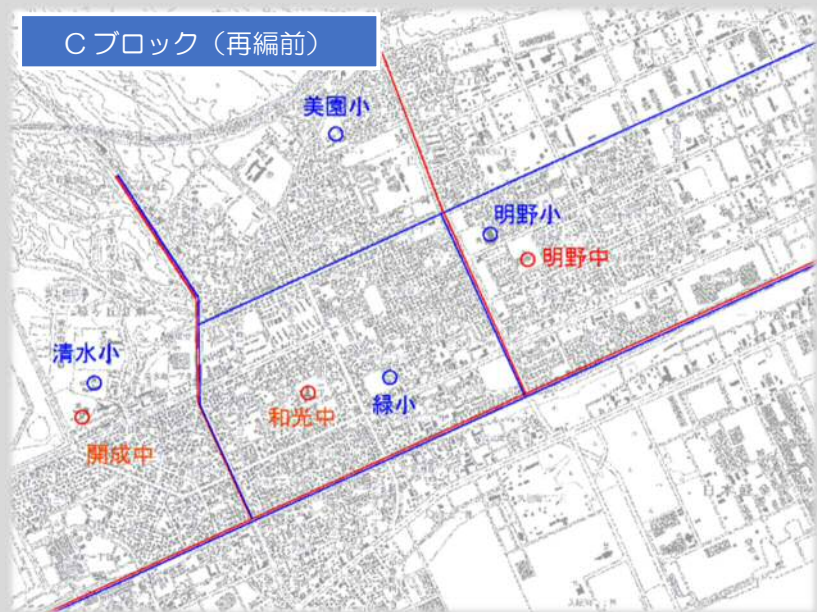
おおむね適正規模で推移
→現状を維持

Zブロック
（植苗・勇払・樽前地区）

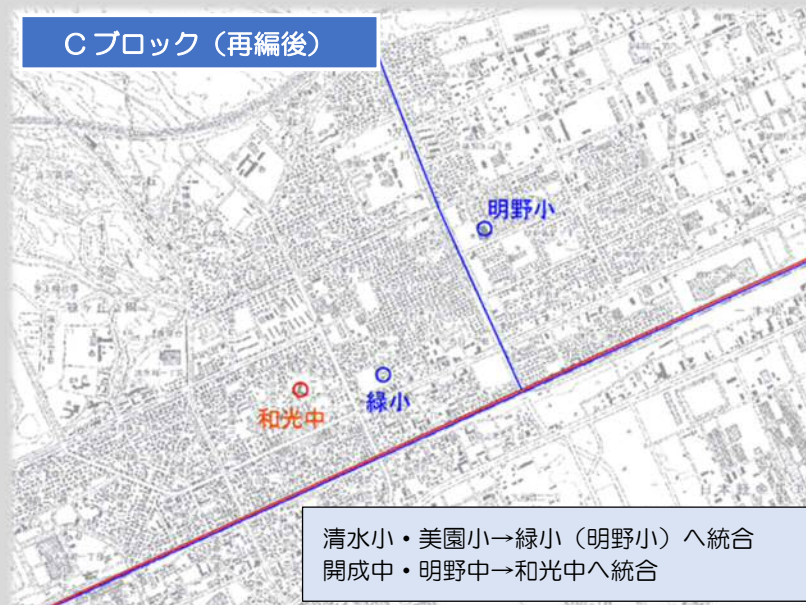
地域の特色や少人数の特性
を活かした学校運営の継続
勇払小・中は、令和12年
度に義務教育学校化



Cブロック (再編前)



Cブロック (再編後)



Eブロック (再編前)



Eブロック (再編後)

